

術前の栄養状態がTAVI患者の術後急性腎障害および予後に与える影響

1. 研究の対象

対象： 2014/1/1から2024/12/31の間に当院で待機的にTAVIが施行された病
除外基準： 透析病者さま、研究への参加に同意が得られなかった病者さまなど

2. 研究目的・方法

心臓の左心室から大動脈の間にある大動脈弁が何らかの影響で開きにくくなる”大動脈弁狭窄症”に対する根本的治療には大動脈弁を人工弁に置き換える手術が必要です。この手術は外科的に大動脈弁を置換する治療する方法(SAVR)とカテーテルを用いて置換する方法(TAVI)に大きく分類されます。どちらの方法で各病者さまの治療を行うかは病者さまの年齢や併存疾患、血管性状などを加味しつつ、院内のハートチームで協議して最適な方法が提案されます。特に、病者さまが手術に耐えうる体力があるかどうかは大きな手技選択の要素となり、難しい場合にはTAVIの選択が多い傾向があります。近年、高齢者の栄養状態はTAVIを含めた様々な侵襲的治療をうける際に、治療予後を規定する重要な因子であることが知られています。さらには術前の栄養状態が悪い(低栄養)の病者さまでは術後に腎機能の回復が遅れることも報告されています。しかし、この低栄養の状態と腎機能の悪化が併存した際に、術直後のみならず中・長期的にその影響がどの程度現れるかは十分な検討がなされていません。そこで本研究では当院でTAVIを受けられた病者さまの術前の栄養状態と術後腎機能を複合的に観察し、予後への影響を検討することを目的としています。なお、本研究での栄養状態の評価はPNI(prognostic nutritional index)という、血液検査を用いた客観的評価方法を用います。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

診療録より病者さまの血液データ・心臓エコー・術前後～退院後外来の状態などの情報を収集します。

4. 研究組織

心臓病センター榊原病院(外部への情報提供はありません)

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて病者さまもしくは病者さまの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先まで2025年10月31日までにお申出ください。その場合でもその後の診療など病院サービスについて病者さまに不利益が生じることはありません。

[照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先]

心臓病センター榊原病院

住所：岡山市北区中井町2-5-1/電話：086-225-7111

担当者：奥村佳史(薬剤部)

研究責任者：奥村佳史(薬剤部)